

生物多様性の保全に取り組む市内2カ所が「自然共生サイト」に認定

10月6日、民間の取組み等によって生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する「自然共生サイト」に「コウノトリ育む中筋の里地里山」（豊岡市申請、56・4ヘクタール）と「コウノトリ育む祥雲寺水田」（県立大学大学院申請、7・152ヘクタール）の2カ所が認定されました。

「自然共生サイト」は、2030年までに国土の陸・海それぞれ30%で生態系を保全する「30 by 30」という目標を達成するため、国が23年度から開始した制度です。認定区域は、国立公園等の保護地域との重複を除き、国際データベースに登録されます。登録されると、生物多様性保全に貢献している自治体や企業であることを国内外にアピールできます。

市では、市内の民間企業に対しても認定登録へ向けて働きかけていきます。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎23-11116



▲「自然共生サイト」で初回認定された「コウノトリ育む中筋の里地里山」。全国では122カ所が認定を受けた



◀環境省自然共生サイト

児童虐待発生時に迅速に支援するため 県警本部と連携協定を締結

児童虐待は、事態が急展開し重大事件に発展する場合があります。昨年度、全国の児童相談所が対応した児童虐待件数は、21万9170件で過去最多でした。県内では本年、神戸市で6歳の男児が虐待により亡くなる事件がありました。こうした状況を受けて、兵庫県警察本部は、県内各市町と児童虐待に関する連携協定を進めており、本市でも10月10日に連携協定を締結しました。

この協定に基づき、普段から警察と緊密に連携を取ることによって子どもの安全確保を確実に行うことができます。また、万が一事件が発生した際には、支援が迅速かつ円滑に行えるとともに、警察と支援方針等を共有することで有効な支援体制を構築することができます。

《問合せ》こども支援課 ☎21-9038



▲今後は、県警本部と連携し、児童虐待案件に対応する

市政ニュース

10月

- 6日 市内2カ所が「自然共生サイト」に認定
- 10日 第5次豊岡市行財政改革大綱の策定
- 児童虐待に関する連携協定締結
- 21日 能見篤史さんにコウノトリ賞を授与
- 30日 豊岡ファンミーティング2023

11月

- 1日 第74回豊岡市美術展（～5日）
- 3日 第51回出石お城まつり
- 12日 コウノトリ感謝祭
- 15日 路線バスキャッシュレシマ化実証実験事業（～2月14日）



出石町出身・元プロ野球選手

能見篤史さんに「コウノトリ賞」を授与

昨年現役を引退した、出石町出身の元プロ野球選手・能見篤史さんが10月21日、母校の小坂小学校の150周年記念事業で帰郷することに合わせ「コウノトリ賞」の授与式を行いました。コウノトリ賞は、各分野で活躍した豊岡市ゆかりの人物を顕彰するものです。記念の盾を受け取った能見さんは「この賞に恥じないような行動を取るとともに、地域に貢献できるように何かをしていきたいと改めて思いました」と受賞の感想を述べていました。

なお、同小学校で行われた記念講演の要旨は次のとおりです。



能見篤史さんプロフィール

出石町出身。小坂小学校、出石中学校卒業後、鳥取城北高校に進学。大阪ガス(株)で社会人野球を経て、2004年阪神タイガースに入団。13年には第3回WBCに日本代表として出場。20年にオリックス・バファローズへ移籍。22年現役を引退。現在、野球評論家としてテレビなどで活躍中

野球練習の準備も楽しかった
小学生時代

小坂ブラッキーズに入部できるのは小学3年生からだったのですが、1年生の頃からボール拾いに参加し、練習の「邪魔」をしに行っていました。3年生になって入部できると、家が近所だったこともあって、練習の1時間前にはグラウンドに行きました。倉庫から何往復もして、ベース、バット、ヘルメットなど道具を全部一人で準備するのが、すごく楽しかったです。

また、小学生当時は、家でじっとしていることはほとんどありませんでした。よく円山川に行つて、川に向かって一生懸命石を投げていました。どれだけ遠くに投げられるか、投げやすい石を探して、何度も投げて、川越えができるようになりました。体の使い方や投げ方は、そのときに自然と身に付き、それがボールに変わったという印象です。

プラス思考で考えた中学時代

中学校に進学し、他の学校の選手と一緒に、僕よりもレベルが高いと感じました。しかし「かなわないな」とあきらめるのではなく「負けないようにどうしたらいいか」と考えるようになりました。考え方が方向性は変わるので、その時プラスの方向にとらえられてよかったです。

運を引き寄せるのは自分

プロ野球選手になったのは、得意分野が野球しかなかったから。勉強ができるわけでもなく、他に進むものがなかった。運もあると思います。でも、運というのはがんばった人しかついて来ない。間違いない、引き寄せるのは自分自身。



▲母校で記念講演を行い、子どもたちの質問に答える能見さん

がんばれば運を引き寄せることはできます。私は自分が納得のいくまでやり、悔いなく終われるようにという気持ちでずっと持ってやってきました。ただ、続けることはとても難しいです。

苦手なことに向き合う

小学生の皆さんへのアドバイスとしては、小さなことでもいいので、例えば、今日一つ家の手伝いをする。嫌なことだけど続けて行えば1年365日で365個成長できます。嫌なことでも逃げないでいると、自然に周りから助けが入ります。苦手なことに向き合ってみてください。

《問合せ》秘書広報課

☎ 21-9035